

10. インフラストラクチャー研究所

1. 主な活動の記録

- (1) 社会資本の国民生活に果たす役割と必要性、その整備における建設コンサルタントの役割についての理解増進

社会資本の動向及び建設コンサルタンツ協会に関連する最新情報を官公庁・業界新聞社などのホームページより抽出したリンク集を作成し、協会会員に「インフラ研通信」としてメール配信した。

- (2) 望ましい建設生産システムのあり方についての検討

契約のあり方専門委員会の事務局として、建設コンサルタントの業務内容と契約形式の差異解消や成果品の著作権に関する検討に参加した。

さらに、令和7年10月と12月に契約のあり方専門委員会において、委員会活動成果の説明と顧問弁護士による講習を行う、「契約のあり方講習会」開催の企画作成などに参加した。

- (3) 建設コンサルタント技術者及び業界の資質の向上

戦後のインフラ整備事業を振り返り、建設コンサルタントの意識向上を図る目的で設立された戦後インフラ整備事業研究会に、幹事・事務局として平成30年度から継続して企画・運営を行った。また、「インフラ整備70年～戦後の代表的な100プロジェクト～」講演会については、Web・会場参加のハイブリッド形式にて開催（令和7年度は第59回～第66回）するとともに、講演記録集（6講演分を収録）の編集・発行（vol.9）を行った。

国土交通省と連携して運営する「道路橋技術相談窓口」の事務局として継続的に対応した。

海外の社会資本の視察を通して、今後の我が国における社会資本整備のあり方についての知見を広げ、さらなる研鑽に生かすことを目的に、家田仁政策研究大学院大学特別教授を団長とする欧州インフラ事情調査の企画・運営を行った。

「建設コンサルタントビジョン2025」を受け

ての新旧中期行動計画（2023-2026⇒2026-2029）の取りまとめ、建設コンサルタントの地位向上検討委員会での業界統計指標分析を行った。

- (4) 社会・経済システムの変革に伴うニュービジネスの開発

令和2年5月より国土交通省のグリーンインフラ官民連携プラットフォーム運営委員会及び技術部会への参加、グリーンインフラ産業展の実行に参画した。上記に際し、協会員からのグリーンインフラに関する情報収集や意見・意向把握を行い、それら結果を運営委員会等への提示・提案など、橋渡し役を担った。

- (5) 自主研究

石田東生筑波大学名誉教授の助言の下、建設コンサルタントが携わる可能性のある新たな業務（観光地域づくり、橋梁分野の包括管理、道路維持管理、途上国における民間や住民の防災・減災能力向上等）の発掘に向けた調査・研究を行った。成果については報告書に取りまとめ、協会会員をはじめ、広く一般にも向けて協会ホームページに公開した。

また、各研究員が主とする技術分野の専門委員会にも参画し、自己研鑽に努めた。

2. 次年度の活動について

インフラストラクチャー研究所のミッション（使命・任務）を継続的に実施し、建設コンサルタント業界などにその成果を広報・啓発していく予定である。

（インフラストラクチャー研究所 今井 稔）